



Kazé



ルヴァン便り No.14
2022.7

続・西村伊作の理想の学校 文化学院 戦後の再興と芸術教育の継承

1921（大正10）年に創立された文化学院は、生徒一人ひとりの個性と思想を大切に育てる新しい芸術教育を行う学校として一世を風靡しました。西村伊作の理想の教育は、他から縛られることなく広く自由に学び、世界に通用するような文化的素養のある人間を育てることでした。彼は美しい校舎と家具を自らデザインし、多くの芸術家や文化人を教師に招き、理想の学校をつくります。

太平洋戦争がはじまると自由な教育を謳う文化学院には逆風が吹きます。校長西村伊作の自由な発言や振る舞いと文化学院の自由主義の教育は国是にあわないと、1943年校主の西村伊作は不敬罪の容疑で逮捕され、文化学院は強制閉校となりました。

終戦とともに西村伊作の刑は無くなりました。そして一年も待たず、西村伊作は子供たちと卒業生たちの協力を得て、1946年4月25日に文化学院の再開式をとり行います。戦後の混沌の中、知の泉で渴きを潤したい人は大勢おり、再開校式には400名近くの人々が文化学院講堂に集りました。

最初に立ち上げられたのは幅広い年齢層を対象に人文・自然科学を講義する「文科」、ひと月おかれて毎週土曜日に開催する音楽と講演の会「文化教会」もはじまりました。翌1947年、四女ソノを中心に美術科を、長女アヤが英語ハイスクールをはじめます。1949年には次女ユリが社会人向けのデザイン科を、伊作が亡くなってからは長男久二が建築科と陶磁科を立ち上げ、社会の復興と共に文化学院の教育分野は拡大していきます。三男八知、卒業生で画家の村井正誠や山本蘭村、随筆家の戸川エマらも母校の教壇に立ち支えています。

戦中の縛りから解放された社会で再開校した文化学院の歩みと、それを支えた新しい世代の講師ら、猪熊弦一郎、佐藤忠良、脇田和、斎藤寿一らの作品を本企画展ではご紹介いたします。



1960年代 デザイン科 村井正誠先生



1960年代 美術科
脇田和先生



1970年代 文化学院アーチ



「対決」 斎藤寿一



「キコ」 佐藤忠良



「メキシコの太陽」 脇田和

西村伊作旅行日記 (13)

シカゴ～ソルトレークシティ

西村伊作は1909(明治42)年3月27日、25歳の時、横浜からドイツの商船で欧州を經由して米国に向けて旅立った。この日記はその際の旅行記である。今回は、ボストンで末弟七分(スティーブン)と分かれ、次弟真子(マルコ)が住むロスアンゼルスに向けての列車の旅の内、米国中部から西部、シカゴからソルトレークシティまでの間について記している。

伊作は列車の乗り換え時などを利用して、駅周辺を巡り米国を精力的に観察し、また、この頃既に建築に興味を持っていたらしく、建築に関する記述も多くみられる。

なお、原文は判読困難な文字も少なからずあり、そのヶ所は○としている。また、原文には句読点はなく、読みづらいため筆者の判断で新たに書き加えた。



● 6/21

朝シカゴへ着。荷物をステーションへあずけて町を見に行く。立派な建物が多い。町は賑やかである。大きな建築物の中は皆大理石で立派なものである所の大建築へ入つて行つてダマつてエレベーターへ乗つて頂上まで上つて見てまわつてもだれも何とも云わない。或る銀行の金庫の中へ入つて見た。こころよく見せてくれる。

雨がふつてしかたがない。停車場へかえつて近所のホテルで入浴し、夕方の汽車でカンザスシチーへ向かう。車中に日本人が乗つて居る。シカゴの領事であつた。

● 6/22

カンザスシチーへ着。コゝで車を乗り変える。二時間程停車場でまつた。雨ふり雷鳴り、町へ一寸も行く事が出来ぬ。汽車の窓より見る景色はボストンを出てからいつも同じ様な平凡なものである。平地に木造家屋が散らばつて居て、牧場に牛がちらちら見え風車が所々に立つて居る。風車はオランダの様なのではなく小さいので水を汲む為めである。鐵道の傍らには色々な花が咲いて居る。黄や赤い紫など交つてきれいだ。

● 6/23

朝デンバー着。汽車が少し遅れた、めこで乗りかへるのに大いそぎであつた。こからは景色が一寸変化する。コロラドスプリング辺から山計りである。車の後にオブサーベーションカーを付け自由に山を見物する様にしている。

米国の小屋は日本の様に○板や木の皮や草などで作つて居ない。ブリキや巨○の大板やフェルトやで作つてある○風流きはまる。

汽車は二つの汽関車を付けて、岩計りの山の兩岸に○へ立つ急流にそうて○せ上がる。ずい分ひどいところへ道を付けてある。赤い岩の絶壁にそい汽車は蛇の様にうねうねときついカーブを走る。奇崖壁一つを過ぐれば他が現れて一々見るにいとまが無い。

谷の流は急に岩に激して居る。水の色は茶色であつた。平地に出ると、灰の如き土で砂漠の様でカクタスが生へて居る。木は皆迄灰の様な土ほこりを被つて白くなつて居る。こんな景色はあまり有がたくない。伊太利よりスキツルへ越へる道などの景色は岩は紫色をなし○○如き木、水面の様な水で○に気に入つたが、こは赤い岩、灰の如き土、土まぶれの木、にごりたる水、写真にとれば立派な岳だが○にすかない景色である。山にはヒバと云ふて日本の庭木などにしている木が多くある。面白く奇態をなしたのもある。山の中にロッグハウスがちらちらある。

米国の家々はどんな家でもまはり垣根がなく開け放しの土地に家だけを置いて居る様である。

日本の庭と云う様な所がない。家のまはりに芝草の生へた平庭がある計りである。

汽車は夏の暑いときでも決して窓を開けぬ。やうやく五寸程あけてそこへ金網をはつた枠をいれる故、風が少しも入らず暑い事甚しい。然し塵や○はどこからともなく入つて来て心地が悪い。

● 6/24

午後三時迄汽車はソールトレイキ シチーへ向かふて走つた。高原のデザートを通る。所々に礦山がある。そこには停車場がある。三時にソールトレイキ シチーへ着。こで停車場を出てサンピードロ鉄道の停車場へ行く。そして手荷物を預けて置いて町を見に出た。あまり大きくない町であるけれども賑やかな町だ。自動車で見物した。有名なモルモン○のある町だ。自動車の案内者は色々説明する。ここはだれの家で、ここは何々だと案内者の云うことはどこでも同じく無味乾燥なものだ。夕方八時半の汽車でロスアンゼルスへ向ふ筈の所、寝台が売り切れたと云ふので次の汽車十一時五十分のへのる事にして、夕方から汽車でグレートソートレイキを見に行く。百分二十五の塩分を含む水で出来た大なる湖である。汽車は栈橋の先の海水浴場及色々な遊び場のある所迄行つてとまる。此遊び場には事務室や料理屋やメリーゴーラウンドや欧米どこの海岸にも同じことである。日本人の店もある。日本人の玉つきが一番はやつて居る。

また遊び場所にはどこにも日本人の玉○かしがある。

湖○に遊んだ。水がからい事甚しい。顔へ付いた水が干いて顔がお白粉を付けた様に白くなる。

夜十時過迄一人でぶらぶらして又汽車で町へかへりロスアンゼルスへ向ふて出発。

2022年度 ルヴァン美術館のご案内

6月11日(土)～11月13日(日) 10:00～17:00
水曜日休館(8月1日～9月15日は無休)

ローズフェスティバル

10:00～17:00 ルヴァン美術館の庭のバラが見どころです。

6月18日(土)～7月3日(日)

サマーコンサート

- ①山口佳子ソプラノコンサート 7月16日(土)
出演者:山口佳子(ソプラノ) 仲田淳也(ピアノ) 井出 司(テノール)
主催:YYTK-Music 問合せ・予約:0426-73-3113 YYTK-Music info@yytk-music.com
- ②気軽にクラシック×オペラの午餐 7月23日(土)
出演者:田谷野望(ソプラノ) 新堂由暁(テノール) 加藤大聖(バリトン) 松村優吾(ピアノ)
主催:QUM音楽事務所 共催:オペラコンシェルジュ OVEST
問合せ・予約:080-9877-6139 QUM音楽事務所(加藤) tfriends0513@gmail.com
- ③チェロ奏者ボグナー来日公演 シュトゥットガルトの仲間たち 7月31日(日)
演奏者:ギョルギー・ボグナー(チェロ) 林 徹也(ヴィオラ) 指原桃子(ヴァイオリン)
- ④近藤和花ピアノコンサート(第14回) 8月7日(土)
- ⑤ボサノバ・サパトス/木村 純・三四郎(第18回) 8月13日(土)
主催:三四郎ミュージックフェローズ 問合せ・予約:090-7834-8814 sanshiro@sax346.com
- ⑥戸室 玄ピアノコンサート(第2回) 8月20日(土)
- ⑦J.C. Acoustics ジャズ・ポップス・ラテンの新感覚サウンド 8月23日(火)
演奏者:上田浩司(A.Gt/E.Gt) 染谷匡紀(A.Gt) 菅野吉也(Perc.)
- ⑧寺田悦子・渡邊規久雄/四手連弾ピアノコンサート(第4回) 8月27日(土)
- ⑨音のそよ風 vol.1 9月3日(土)
出演者:白田道成(ギター・ヴォーカル) Dennis Frehse(ドラム) 山内和義(ベース)
主催:株式会社ファイブナインファクトリー 予約・問合せ:info@fivenine.biz

- 入場料:④⑤⑥ 一般:3,000円 中学生以下:1,500円 未就学児:無料 要予約
①③⑦⑧ 一般:4,000円 中学生以下:2,000円 未就学児:無料 要予約
② 音楽料5,000円 レセプション料5,000円 セット割引9,000円 要予約
⑨ 一般:3,500円

- 時間: ①④⑤⑥⑧⑨ 開場 16:00 開演 16:30 美術館 15:00 閉館 カフェ 16:00LO・16:30 終了
③⑦ 開場 16:30 開演 17:00 美術館 15:00 閉館 カフェ 16:00LO・16:30 終了
② 開場 14:00 開演 15:00 レセプション 17:00 美術館 13:00 閉館 カフェ 14:30LO・15:00 終了

ギャラリーレクチャー

「滅びゆく日本語 –その細道を辿れば……」 9月24日(土)
講師:辻原 登(作家 ルヴァン美術館理事長) 14:00～15:30

ワークショップ

- <陶芸教室> 7月30日(土)・31日(日) / 8月20日(土)・21日(日) / 9月18日(日)・19日(月・祝)
講師:森田高正(陶芸家 アトリエ陶のもり)
10:30～12:00 / 14:00～15:30 3,000円(材料費含)
- <木工教室> 8月11日(木)～15日(月)
講師:永島秀之(木工作家 雑木林(ぞうきりん))
10:00～ / 11:00～ / 13:00～ / 14:00～ / 15:00 参加料:1,000円(材料費含)
- <染めの実験教室> 8月8日(月)・9日(火) / 8月17日(水)・18日(木)
講師:立花万起子(ルヴァンスタッフ 元文化学院教員)
11:00～ / 14:00～ ハンカチ2,000円(お子さま) ストール3,000円(大人)
- <ウィンターオーナメントづくり> 10月8日(土)
講師:大谷 香(色彩の工房主宰)
10:30～ / 14:00～ 3,000円(材料費含)

秋のアートフェスティバル

10:00～17:00 入館料無料 10月9日(日)
スケッチ大会開催 小学生にはスケッチブックとクレヨンをプレゼント

※コンサート・イベント・ワークショップは開催予定が変更になる場合がございます。ご了承下さい。

☆カフェテラス Cafe Le Vent、ミュージアムショップ Le Vent は、常時ご利用いただけます。

ルヴァン美術館: 〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢長倉957-10 Tel.:0267-46-1911 Fax.:0267-46-1910
東京事務所: 〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-14 Tel.&Fax.:03-3401-8896 <https://www.levent.or.jp>